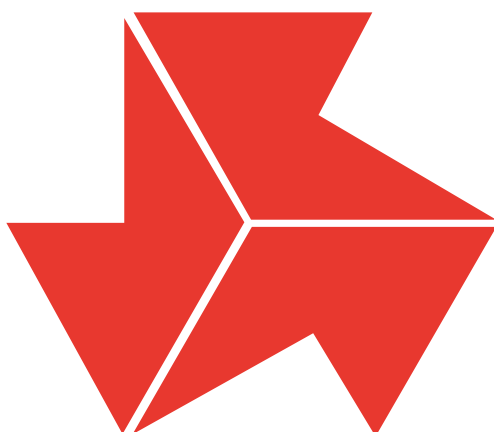
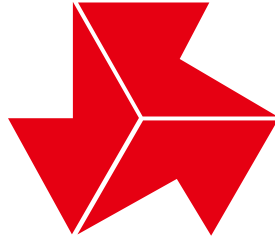


高体連



2023

徳島県高等学校体育連盟



高体連マーク

競技は力であり，進歩は技の練磨にまつ，しかし競技者はこれをつつむに明朗な精神をもってせねばならない。高体連のマークを構成している三つのKはこれを意味している。

KRAFT 力
KUNST 技
KLARHEIT 明朗な精神

がそれであり，しかもその色彩は若人の熱情を示すものである。

高体連の歌

作詞 増田文雄
作曲 小松 清

はつらつと ♩ = 104

1. あけ ゆく おおぞら あかねのあさのひ あー
おぐこころは さやかに はれて と
もにかたく みきーたーえゆく いー
のち はつら ついき あがる
1. 2. 3と もよいざ つどいなん
こうたいれん こうたいれん われらわか し

- | | | |
|--|---|--|
| 一、あけゆく 大空
あかねの 朝の陽
仰ぐ心は さやかに晴れて
ともに肩組み 鍛えゆく
生命はつらつ 意気あがる
友よいざつどいなん
高体連 高体連 われら若し | 二、さみどり萌えたつ
希望の この土
しかと踏みしめ 大気に伸ばす
この手 この脚躍進の
ちから 溢れて血はおどる
友よいざつどいなん
高体連 高体連 われら若し | 三、世紀のひかりは
野山に 波路に
うた声たかく こだまとひびき
たゆまぬ努力 技を練る
行手はまれの 花かおる
友よいざつどいなん
高体連 高体連 われら若し
(昭和32年7月15日制定) |
|--|---|--|



▲ 最優秀賞 『一射入魂』 富岡東高校 松下由愛



▲ 特選 『突破』 阿南光高校 國清朱李



▲ 特選 『飛ばせ！飛ばせ！』 徳島科学技術高校 一宮陸叶



▲ 準特選 『コロナ vs Smile Winner Smile』
徳島科学技術高校 三木健矢



▲ 準特選 『勝負の行方』
城東高校 加藤玄暉



▲ 準特選 『最後の礼』
徳島市立高校 川 又 颯 司



▲ 準特選 『決めろ』
徳島科学技術高校 高 木 晴 菜



▲ 準特選 『雨にも負けず』
阿南光高校 松 川 悠 悟

目 次

あ い さ つ	徳島県高等学校体育連盟会長	金本 賢治	1
高体連誌発刊によせて	徳島県教育委員会体育健康安全課長	吉岡 直彦	2
専 門 部 報			
陸 上 競 技		村山 佳史	3
水 泳		記本 貴寛	14
体 操		山田 隆弘	21
卓 球		阿部 知行	25
バスケットボール		泉 直哉	38
バレーボール		中本 浩平	45
ソフトテニス		光山 幸典	52
サ ッ カ ー		村山 孝博	64
ラグビーフットボール		富加見泰輝	68
ソフトボール		元木 貴大	71
相 撲		岩川 大助	75
柔 道		吉田 聡介	82
剣 道		河野 寿仁	92
弓 道		田中 久美	107
ウエイトリフティング		鎌田 幸義	117
レスリング		伊丹 弘	122
登 山		山田 修	130
バドミントン		豊富 恵子	133
ハンドボール		岩本 靖史	139
ホ ッ ケ ー		福井 健持	143
自 転 車 競 技		佐々木晃雄	145
テ ニ ス		村澤 宏樹	147
ライフル射撃		青木 満博	158
空 手 道		喜田 拓己	164
ボクシング		高木 幸司	172
カ ヌ ー		松田 勇輝	175
な ぎ な た		森杉 一弥	180

フェンシング	仁木 将之	183
アーチェリー	山本 静	187
ボート	栗田 一也	189
少林寺拳法	山仲 慎二	191
定通部	前濱 由佳	195
研究部報告	澁谷 直子	200
手記・感想		202
参 考		
令和4年度全国高等学校総合体育大会・全国高校選手権・四国高等学校選手権大会成績		216
第62回徳島県高等学校総合体育大会優勝校・優秀選手一覧表		217
県下高校生の全国大会での活躍（優勝）		218
徳島県高等学校総合体育大会種目別優勝校一覧		224
第62回徳島県高等学校総合体育大会（第49回写真コンクール審査会結果）		230
編集後記		231



あいさつ

徳島県高等学校体育連盟
会長 金本賢治

高体連会員の皆様の日々の献身的なご尽力が、本県高校生の体育・スポーツの振興や競技力の向上、人材育成に繋がっていることに心より感謝申し上げます。また、本県高体連の諸事業に、深いご理解とご協力いただいていることにお礼申し上げます。

今年は、「燃え上がれ我らの闘志 四国の大地へ」の大会スローガンのもと、徳島県・高知県・愛媛県・香川県・和歌山県の5県において、令和4年度全国高等学校総合体育大会「躍動の青い力 四国総体2022」が開催されました。四国でのインターハイ開催は24年ぶりであり、本県では「陸上競技」・「バレーボール(女子)」・「サッカー」・「バドミントン」・「弓道」・「ホッケー」の6競技を実施し、全国から選手・監督・コーチ9,476人、観客63,468人を迎え、盛大に開催することができました。

今回の大会では、柔道女子で生光学園高校が団体で5位に入る大健闘を見せてくれました。個人でも、陸上競技で富岡東高校の吉田康晟君が三段跳びで優勝するなど、団体で1競技、個人で9名が入賞を果たしました。そして入賞にはなりませんでしたが、サッカー女子の鳴門渦潮高校、登山女子の池田高校、陸上競技フィールドの生光学園高校が団体でベスト8に進出しました。また、第60回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会が広島県で開催され、チームライフル女子団体で阿南光高校が優勝、チームライフル男子団体で小松島高校が準優勝、エアライフル女子団体で城南高校が3位、エアライフル男子団体で小松島西勝浦校が7位入賞を果たしました。個人でも女子10mエアライフル立射40発競技で城南高校の泰地陽詩さんが優勝するなど、4名が入賞を果たしました。入賞された皆さんには、心よりお祝いを申し上げますとともに、平素ご指導をされている先生方にお礼を申し上げる次第です。

この全国総体は、一昨年史上初めて中止となり、昨年は原則無観客での開催となりました。本年度は有観客での開催に向け、できる限りの感染対策を講じて実施していただきましたが、開幕直前の新型コロナウイルス感染症の感染急拡大による運営方法の変更などもあり、多くの皆さんにご心配やご迷惑をおかけしました。

また、地元開催により、県内高校の約7割の先生方、県内高校1・2年生の約4割の生徒の皆さんに、競技運営補助員として大会を支えていただきました。県内高校生活動推進委員会では、県内47校から96名の生徒と教職員が参加し、手作り記念品やおもてなしマップの作成、ウェルカムボードや応援メッセージフラッグの設置など、工夫をこらした「お接待」(おもてなし活動)を行い、大会を盛り上げていただきました。このように、インターハイは出場した選手はもとより、大会を支えた生徒にとっても自己の研鑽と重要な自己実現の場となり、大会に関わったすべての高校生が「躍動の青い力 四国総体2022」の主人公として、これからの生き方や人としての在り方に良い影響を与えてくれるものと期待しております。

結びとなりますが、本連盟はインターハイの地元開催をレガシーとして、今後も体育・スポーツの活動の中で、フェアな精神で規律を重んじ相手を思いやることのできる子どもたちの育成に努めるとともに、環境整備にも取り組んでいきたいと考えています。県教育委員会や県スポーツ振興課、県スポーツ協会をはじめ、県高体連会員の皆さんには引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。高体連誌刊行のごあいさつとさせていただきます。



高体連誌発刊によせて

徳島県教育委員会体育健康安全課
課長 吉岡直彦

徳島県高等学校体育連盟会員の皆様には運動部活動をはじめ、本県高等学校における体育・スポーツ振興の推進役として、各競技会や研究活動の普及と発展のために御尽力をいただいておりますことに、敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、令和4年度の高等学校競技スポーツを振り返ってみますと、令和4年度全国高等学校総合体育大会「躍動の青い力 四国総体2022」が7月23日から8月23日までの間、四国4県と和歌山県において開催され、30競技34種目で熱戦が繰り広げられました。県内においては一部入場制限もありましたが、3年ぶりに有観客で開催し、全国の高校生の力一杯のプレーに、多くの県民が勇気と感動をいただきました。また、51年ぶりに本県で開催された総合開会式では、コロナ禍以降3年ぶりに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を賜るとともに、都道府県選手団による入場行進を実施いたしました。総勢200名を超える県内の生徒が出演した公開演技では、これまで練習してきた成果を発揮し、力強く華やかなパフォーマンスを披露していただきました。

徳島県代表として、各競技に出場された選手や、総合開会式出演・大会運営・高校生活動・ボランティア等に参加し、大会を支えていただいた方々に心より感謝申し上げます。

競技においては、団体では生光学園高校女子柔道部が5位、同校陸上競技部が（女子フィールド）4位、鳴門渦潮高校女子サッカー部と、登山で池田高校女子山岳部がベスト8となりました。個人でも、陸上競技で優勝をはじめ、ウエイトリフティング、柔道、水泳（競泳）、で18種目の入賞を果たし、徳島県代表として全国総体の舞台で強豪を相手に堂々とした戦いぶりを見せてくれました。

また、同時期に開催されました全国高等学校ライフル射撃選手権大会では、団体チームライフル立射で阿南光高校女子が優勝、小松島高校男子が2位、団体エアライフル立射で城南高校女子が3位、小松島西勝浦校男子が7位、個人でも女子チームライフル立射で優勝、女子エアライフル立射で優勝、男子チームライフル立射、女子チームライフル立射で入賞を果たし、こちらも4種目の入賞となりました。

これらの成果は、生徒の皆さんの努力はもちろんですが、コロナ禍により、思い描いた選手強化ができないなど、様々な課題と直面する中、毎日の練習の中で生徒の才能を磨き、チームワークを高め、全国の舞台で最高のパフォーマンスを引き出した指導者の皆様の熱心な取組みの賜であります。携わっていただいた全ての関係者の皆様に対しまして深く敬意を申し上げるとともに、今後も一層の御指導・御協力をお願い申し上げます。

一方、学校教育では、平成30年告示の新学習指導要領が令和4年度入学生から年次進行により適用され、保健体育科の目標においては、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す」としています。健康な生活と運動やスポーツとの関わりを深く理解したり、心と体が密接につながっていることを実感したりできるようにすることが求められており、学校教育活動全体において、体育・健康に関する指導を充実させ、全ての生徒の体力向上と健康増進に取り組んでいただきたいと思います。

結びとなりますが、徳島県高体連会員の皆様には、本県の未来を支える高校生の心身ともに調和のとれた健全な発達と、高校スポーツの充実・振興のため、一層の御支援・御協力をお願いいたします。

徳島県高体連の今後益々の御発展を祈念申し上げまして、高体連誌発刊に寄せる言葉といたします。